

平成23年度（2011年度）

授業力向上のための I C T 活用に関する研究

平成23年（2011年）4月28日、文部科学省は「教育の情報化ビジョン」を取りまとめた。それに伴い授業でのI C T機器の活用がより求められているが、本研究では単にI C T機器の活用方法を研究することが目的ではなく、教師の授業力向上のためにI C T機器をどう活用するか、また児童・生徒の情報活用能力をどのように向上させるかを研究の目的とし実践的研究を行った。

＜研 究 員＞

里 良和 箕面市立箕面小学校
神原千寿子 箕面市立箕面小学校
斉藤 直子 箕面市立萱野小学校
西田 俊治 箕面市立北小学校
井上 洋 箕面市立南小学校
神崎 佑一 箕面市立南小学校
美馬 香里 箕面市立西小学校
青野 遼 箕面市立東小学校
神崎 有香 箕面市立西南小学校
岡村 直哉 箕面市立萱野東小学校
井田 淳子 箕面市立豊川北小学校
磯部 純子 箕面市立中小学校
三宅 美典 箕面市立豊川南小学校
丸山 智美 箕面市立萱野北小学校

吉村 淳史 とどろみの森学園
(箕面市立止々呂美小学校)
神原 里恵 彩都の丘学園
(箕面市立彩都の丘小学校)
鈴木 孝浩 箕面市立第一中学校
田中 順士 箕面市立第二中学校
天岸 大輔 箕面市立第三中学校
笠井 守 箕面市立第四中学校
上山佐弥佳 箕面市立第五中学校
高田 健一 箕面市立第六中学校

＜スーパーバイザー＞

園田学園女子大学 未来デザイン学部 堀 田 博 史 教授

はじめに

箕面市では平成21年度末に小中学校のコンピュータ教室のコンピュータを全台更新し、同時に電子黒板や実物投影機等のICT機器を多数導入した。これらの機器に慣れ、授業でのICT機器の活用が求められているが、単にICT機器の活用方法を研究することが目的ではなく、教師の授業力向上のためにICT機器をどう活用するか、また児童・生徒の情報活用能力をどのように向上させるかを研究の目的とした。

I 研究テーマの設定について

「授業力向上のためのICT活用に関する研究」

グループ①：授業力向上のためにICTをどのように活用するか

グループ②：児童・生徒の情報活用能力をどのように向上させるか

II 研究の方法

スーパーバイザーとして園田学園女子大学の堀田博史教授に年間を通してご指導いただきながら、次のように研究を行った。

III 研究内容

<第1回 6月22日>

- ・今年度の研究の流れを確認
- ・授業力向上のためのICT活用について

<第2回までに>

- ・ICTを活用した授業を各研究部員が1つ以上実施し、指導略案（1学期用）を作成

<第2回 7月27日>

- ・指導略案を元に、ICTを活用した授業の交流
- ・グループ毎に3名が公開授業を行い、グループの研究部員が参加する
- ・発表予定者を決定

<第3回までに>

- ・研究部員全員がグループテーマに沿った指導略案を作成し、各自授業を行う

<第3回 10月19日>

- ・研究グループに分かれ、指導略案（公開授業用）を交流し、研究授業候補の指導案を練り上げ

< 11月・12月 >

- ・それぞれのグループ毎に公開授業を行い、公開授業後研究部会を開催
グループ①

とどろみの森学園 吉村研究部員

中小学校 磯部研究部員

第五中学校 上山研究部員 < 第5回 12月12日 >

グループ②

東小学校 青野研究部員 < 第4回 11月22日 >

萱野小学校 斉藤研究部員

第三中学校 天岸研究部員

< 第6回までに >

- ・指導略案（研究紀要用）を作成

< 第6回 3月6日 >

- ・研究紀要について
- ・年間総括

【別紙資料】

- ・学習指導略案

使用したICT環境については次の略字を使っている

実：実物投影機 PC：コンピュータ 電：電子黒板

T：デジタルTV プ：プロジェクター&スクリーン

IV 研究の結果

次のことを学んだ。

- ・電子黒板を利用することで、実際の映像や動画で見ることができ、生徒にとっては分かりやすく興味を引くことができた。
- ・今、何を求めているのかが視覚的によくわかり、情報の整理がしやすい。
- ・実物投影機の活用により、作業内容を視覚で確認できたので授業効率が上がった。

課題は、

- ・教材作成やICT機器の準備に時間を取られるため、作成した教材を共有することにより有効活用する必要がある。
- ・一般向けのホームページから調べると言葉が難しく、内容の理解が難しい。言葉の意味を推測して自分の知っている言葉に置き換える練習も必要。

V 研究のまとめ

スーパーバイザー 園田学園女子大学 教授 堀田博史

私が箕面市の「授業力向上のための ICT 活用に関する研究」にご一緒して2年目が終了しました。箕面市の研究員制度の特徴は、単に ICT 活用する授業を実践して、振り返るのではなく、授業力向上のために ICT 活用と何を掛け合わせるか（例えば、発問や板書のあり方）を各自が考え、互いの授業を公開して、その確認をすることにあります。今年度は、児童・生徒の情報活用能力の育成を目指す研究にも取り組みました。その成果も見え、また課題も残されました。ここでは、情報活用能力の捉え方、最近の動向をまとめてみます。

情報活用能力とは

文部科学省熟議カケアイ (<http://jukugi.mext.go.jp/archive/486.pdf> 参照日 2012 年 2 月 14 日) では、情報活用能力 WG 検討のまとめポイントを以下のように示しています。

情報活用能力WG 検討のまとめ ポイント

資料 3

1. 新学習指導要領における情報活用能力の確実な育成について

情報活用能力の3つの観点

情報活用の実践力

情報の科学的な理解

情報社会に参画する態度

情報活用能力の育成に関する現状

- 情報活用能力を確実に身に付けることは、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着とそれを活用して行う言語活動の基盤となるものである。
- 情報活用能力は、ICTの操作スキルにとどまらず、情報の適切な活用や情報社会の在り方に関する知識、情報モラルなど広範な能力・態度等で構成されているとともに、広くあらゆる教科等の指導において育成することが求められている。

情報活用能力の育成に関する課題

- 教員や子どもたちがICTを学習場面で活用すること自体が、情報教育であると混同されて受け取られているのではないかと指摘がある。
- 各教科等において、意図的・効果的な情報活用能力の育成について、一層具体・個別に示していく必要がある。
- 中学校「技術・家庭科(技術分野)」、高等学校共通教科「情報」において、情報教育の中核となる教科等としての役割を十分果たしているとは必ずしもいえない状況も一部で見られるとの指摘がある。

情報活用能力の育成のための指導の充実

- 各教科等において、情報活用能力の育成と関連させた学習指導の在り方の検討
- 「教育の情報化に関する手引」において示されている指導事例をさらにわかりやすく示し、すべての教員に対して普及啓発
- 学年ごとに数単元を抽出し、情報活用能力を育成しやすい指導事例を明示した教員向け指導資料の作成
- 子どもたち向けに、各教科等の学習活動における情報活用の場面と身に付けるべき情報活用能力を意識することができるような教材の開発

情報活用能力の育成のための指導体制等の整備・充実

- 指導者養成研修や子どもたちの情報活用能力の育成に必要なICT環境や指導体制に関する研修の充実
- 教員養成学部や教職課程、免許状更新講習等において、子どもたちの情報活用能力の育成に関する内容の充実
- 教員や子どもたちが必要な時にいつでもICTを使える学習環境の整備と、ICT支援員等の配備のさらなる推進
- 子どもたちがデジタル教材に確実にアクセスできるように、組織的に良質なデジタル教材を収集し、その情報の提供の普及

情報モラル教育の重要性

- 情報化の光と影の影響の両面を十分理解した上で、情報モラル教育に取り組むことが重要
- 道徳の時間や各教科等での指導を通して、情報を活用する場面での基本的な考え方や態度を育成することが重要

情報活用能力の育成に関する課題にも書かれているように、教員や子どもたちが ICT を学習場面で活用すること自体が、情報教育であると混同されて受け取られていると指摘があります。

情報活用能力は ICT 活用からだけで育まれるものではありません。各教科で教員が情報活用に関する学習指導のあり方を意識することで育まれるのです。いま一度、研究員の先生方が、情報活用能力とは何かを再認識して、所属校の先生方に伝えていただけたらと願います。

児童・生徒の情報活用能力を意識した授業デザイン

文部科学省のWebサイト (http://www.mext.go.jp/component/a_menu/other/detail/_icsFiles/afieldfile/2011/10/18/1312031_5_1.pdf 参照日2012年2月3日) には、2012年度の予算要求として“情報活用能力向上プロジェクト（仮称）”が掲げられ、「小中学校段階における児童生徒の情報活用能力の育成方策の検討を行い、学習指導の改善を図るとともに、今後必要となる教育課程の検討に資するため、児童生徒の情報活用能力の習熟状況やICTを活用した学習状況について、情報通信機器等を利用した実態調査を実施するとともに操作履歴等を活用した多角的な分析手法を確立する。」と記載があります。

情報活用能力向上プロジェクトでは、おそらく児童・生徒の情報活用能力がどの程度育まれているか、育まれていない情報活用能力は何かが明らかになるでしょう。

今後、学校全体で教科に偏ることなく情報活用能力を育む場面を抽出して、児童・生徒にどのような場面でどのような情報活用能力を育むことができているか、授業デザインや学習指導を整理する必要があります。

協働学習と情報活用能力

ICT環境を活用して、児童・生徒が互いに教え合い、学び合う「協働学習」の実現に向けた取り組みが総務省フューチャースクール推進事業として2010年度より行われ、2年目が終了しようとしています。私が見る限り、児童に様々な情報活用能力が付いてきています。この能力は、協働学習を意識した学習指導の結果、育まれている部分もあります。情報活用能力には、ICT環境のもと、互いに教え学び合う中で育まれる内容もあるのです。箕面市では萱野小学校がフューチャースクールに参加しているので、協働学習の中で育まれる情報活用能力とは、どのようなものか整理するとよいと思います。

Vygotsky, L. S. の最近接発達領域によると、子どもの「学び」の過程において大切なのは、ひとりでできることと他者と一緒だとできることがあり、子どもの知的な活動は、「ひとり」と「集団」の間を繰り返しながら行われていると述べています。協働学習には、この表現が一致しているかもしれません。

今回は、1年間の研究員の活動を主に情報活用能力に注目して振り返ってみました。今年度の情報活用能力の育成を意識した取り組みは、必ず今後の各教科における学習指導に役立つでしょう。この1年間で得た成果をより発展させ、また課題として見えてきた内容を解決するために、各校に戻られてからも研究を継続されることを願っています。

おわりに

1年間の研究で、ICTを活用した研究授業を見たり交流したり自分が実施したことによって、研究員一人ひとりには得たものがたくさんあった。また本年度はICT支援員のサポートを得て、パワーポイント等を利用した教材作成や、スムーズに授業を進めることができICT機器を利用した授業力の向上が図れた。

来年度は、児童・生徒の情報活用能力をどのように向上させるかに主眼を移して研究を継続していきたい。

第5学年 理科学習指導略案

授業者 箕面市立箕面小学校
氏名 里 良和・神原 千寿子

1. 単元名 かたちをかえる川
2. 単元の目標 川の姿を観察し、水の流れが川の姿を形作ることをとらえる。
3. 授業の流れ
 - ①川の流れについて、知っていることをノートに書き発表する。
 - ②川遊びなどで体験したことを発表する。
 - ③川の上流・中流・下流の地形や流れの速さについて調べる。
(川の外側と内側とのちがいを調べる)
4. 本時の目標

川が作る地形を調べ、その様子について発表をする。
友だちの発表を聞き取り、気づいたことを記録する。
5. 本時の展開

学習活動(主発問・内容)	ICT 活用の流れ
前時の復習 川の流れについて確認する。 1 興味・関心をもつ。	「大地をけずる水」についてワークシートに記入する。
2 学習課題を把握する。	
3 川の流れのビデオを見る。	NHK のデジタルコンテンツ「かたちをかえる川」を視聴する。
4 川の流れの速さや川底の様子など映像を見ながらメモする。 その後、発表する。	
5 まとめをする。	ノートにまとめる

6. I C T活用の効果と課題

- ・ その場に行き実際に観察できない場合、映像を見ることにより視覚に訴え、興味・関心を持つことができる。
- ・ 疑問を持ったとき繰り返し見ることができる。
- ・ 慣れるまで操作方法に手間どう。

ICT活用研究員学習指導略案フォーマット（研究紀要用）

第3学年算数科学習指導略案

授業者 箕面市立止々呂美小学校 氏名 吉村 淳史

- 1 単元名
三角形のなかまを調べよう
- 2 本時の目標
・辺の長さに注目して三角形の仲間わけができる
- 3 本時の展開

学習活動（主発問・内容）	ICT活用の流れ
1 興味・関心をもつ 三角形の既習内容について確認する 教科書の円を使って三角形をいくつもかく	IWB と提示装置で2年生の時の教科書などを見せる IWB と電子教科書で自作の三角形を紹介し、IWB のキャプチャーで集める。
2 課題を把握する 学習課題 三角形の仲間わけをしよう。	児童用タブレット PC にキャプチャーした児童の三角形を送信し、それを見ながら三角形の分類わけを行う。
3 自力解決する タブレット PC を見ながら三角形の仲間わけを行う。 4 練り上げる（学び合い） どのように分けたかを提示装置で見せながら発表する。	
5 まとめをする 辺の長さに着目して分類分けしたものを取り上げ、二等辺三角形と正三角形について説明する。	提示装置で児童のノートを提示する。

4 ICT活用の効果と課題

- ・児童の作った三角形を集めたものをもとに授業が行えるので意欲的に取り組むことができる。
- ・LAN の不安定さなどで授業が中断してしまうことがある。

※この指導略案は公開授業で使用しました。

I C T活用研究員学習指導略案フォーマット（研究紀要用）

第5学年 国語科学習指導略案

授業者 箕面市立北小学校 氏名 西田 俊治

1 単元名

千年の釘にいどむ

2 本時の目標

「千年の釘にいどむ」を読み、千年の釘のすばらしさ、見事さに気付き、現在の釘と比較して感じたことを発表する。

3 本時の展開

学習活動（主発問・内容）	I C T活用の流れ
前時の復習	
1 教科書を読む。 （文章構成「はじめ・中・終わり」の「中」の部分を読む。	
2 学習課題を把握する	
学習課題 古代の釘のさびにくさ（材質）と古代の釘のぬけにくさ（形）を読み取ろう。	
教科書に、古代の釘のさびにくさ（材質）と古代の釘のぬけにくさ（形）と特徴が書かれている部分に線を引しながら、内容を読み取る。	「光村 国語デジタル教科書」の「挿絵」を映す。
3 読み取る・深める	
教科書をまとめ読みする。 （文章構成「はじめ・中・終わり」の「中」の部分を読む。	「光村 国語デジタル教科書」の「挿絵」を確認する。
4 伝え合う・交流する	
教科書の写真を見ながら、友だちに解説し（3人グループ）、そのなかの代表者が前に出て、全体に発表する。	「光村 国語デジタル教科書」の「挿絵」を指し示しながら解説させる。
5 まとめをする	
発表のふり返りをしながら、内容をもう一度確認する。	「光村 国語デジタル教科書」の「挿絵」を確認する。

4 I C T活用の効果と課題

- ・ たいした効果を予想していなかったが、思った以上に子どもたちがデジタル教科書の画面に食いついていた。画面を活用した発表では、全体の目が画面に集中し、発表もしやすく、全体での学習の共有化が図れたように思う。
- ・ 挿絵は大きく見やすいが、本文は小さく見えにくいため使用しづらいと感じた。
- ・ 漢字のコンテンツも利用したかったが、時間が足りなかった。しかし、休み時間に子どもたちが自分たちで画面を触りながら、遊び感覚で書き順などを楽しんでいた。

ICT活用研究員学習指導略案フォーマット（研究紀要用）

第 3 学年 理科学習指導略案

授業者 箕面市立南小学校 氏名 井上 洋

1 単元名 どうぶつのすがたとかんきょう

2 本時の目標

- ・動物の生息地の様子を思い出し、必要なことワークシートに記入することができる。
- ・動物を口器の様子を観察し、発見したことを伝えたり、聞いたりできる。
- ・さす・すう口（セミ・カ）、なめる口（カブトムシ・ハエ・アブ）、はさむ・切る口（バッタ・カマキリ・トンボ・アリ）

3 本時の展開

学習活動（主発問・内容）	ICT活用の流れ
前時の復習 1 捕まえた虫（昆虫）の情報（ワークシート3）を見直し、発表に必要な情報を話し合う。	
2 学習課題を把握する 学習課題 めあて 「昆虫の口はどんな種類にわけられるかな？」 発表・記録 ・捕まえた昆虫の名前を挙げ、棲んでいた場所、餌など、先ほど記録した情報を発表する。 ・ワークシートを使って、色々な昆虫の口器の形状に目を向け、なかま分けをする。（ワークシート4）	ワークシートにある昆虫の実際の口器の拡大映像を、デジタルカメラを使って、動画（LIVE 映像）静止画（更に拡大可能）を適宜利用し、拡大投影する。
3 観察 発問 「じゃあ、班の昆虫はどのタイプの口かな？」 ・自分たちの机の昆虫は、3種のどのタイプになるか観察する。 ・個人 → ペア → 班 次の時間は発表会なので、説明できるように発見したことは、お互いで情報交換をする。 ・自分たちの昆虫が、餌をどのように食べているか予想し、再度観察。可能なら、餌を与えて口器の機能を観察する。	
5 まとめをする 昆虫には、さす・すう口、なめる口、はさむ・切る口などのタイプに分かれることを確認する。	

4 ICT活用の効果と課題

- ・昆虫を触ることや近づくことが苦手な児童でも、同じように映像を確認することができる。実際に捕まえた昆虫の拡大映像であるので、より興味を持てる。

I C T活用研究員学習指導略案フォーマット（研究紀要用）

第2学年

生活科学学習指導略案

授業者 箕面市立西小学校 氏名 美馬香里

1 単元名 郵便局で働く人

2 本時の目標 ポストを調べよう

3 本時の展開

学習活動（主発問・内容）	I C T活用
1 興味・関心を持つ それぞれの調べてきたポストの「調べたよカード」からいくつかを紹介することを伝える 学習課題 ポストについて調べよう	
2 考える 絵や文を紹介する中で ・形の違うポスト ・入れ口が二つあるもの ・ポストに書いてあること ・場所 などに違いがあることに気づかせ それがどうしてか考えさせる	実物投影機と電子黒板を用いて カードを映し出す
3 確かめる ①実物の写真を見て、 ・ポストの形はいろいろあること ・手紙の種類によって入れる場所が決まっていること ・回収時間がかかっていること ・ポストにも住所があること などを確認させる ②ポストが近所にどのくらいあるか 紹介する ・近くにたくさんある →便利であること →回収は大変 ことに気づかせる	電子黒板で、パソコンに取り込んでおいた 写真を見せる 電子黒板で以下のサイトを表示する 「ポストマップ」 http://postmap.org/map
4 まとめをする 次時の郵便局見学に向けて 知りたいことをプリントに書く。	

4 I C T活用の効果と課題

- ・絵と写真を比べることで、より細部に注目することができた。
- ・ポストの位置を地図上で見ることにより、近くにもたくさんあることが一目瞭然でわかりやすかった。

ICT活用研究員学習指導略案フォーマット（研究紀要用）

第1学年 国語科学習指導略案

授業者 箕面市立中小学校 氏名 磯部 純子

- 1 単元名 じどう車くらべ
- 2 本時の目標 バスやじょうよう車の「しごと」と「つくり」をとらえることができる。
- 3 本時の展開

学習活動（主発問・内容）	ICT活用の流れ
前時の復習 1 興味・関心をもつ ・p22を音読する。 ・じどう車には、いろいろな種類があることを確かめる。 ・問いかけの文をちとみつけ、線を引く。	電子黒板 ・p22を提示する。 ・じどう車の絵を拡大し、指し示して説明する。 ・本文を提示し、問いかけの文に線を引く。 （「どんなしごとをしていますか」は赤の線、「どんなつくりになっていますか」は青の線）
2 学習課題を把握する ・p23を音読する。	電子黒板 ・p23を提示し、指示しながらことばの説明をする。
3 読み取る・深める ・「しごと」と「つくり」が書かれているところを確かめる。 ・「しごと」には、赤の線、「つくり」には青の線を引く。 ・「そのために」が「しごと」と「つくり」をつなぐことばであることを確認する。 ・バスやじょうよう車について、まとまりを意識して、ワークシートに文を書き写し、絵を描く。 4 伝え合う・交流する ・友だちの発表を聞く。	電子黒板 ・バスやじょうよう車の絵を示して説明する。 ・「しごと」には赤の線、「つくり」には青の線を引く。 ・「そのために」を線で囲む。 電子黒板、実物投影機 ・ワークシートを提示し、書き方を説明する。 電子黒板、実物投影機 ・児童のワークシートを提示する。
5 まとめをする ・p23を音読し、「しごと」と「つくり」を確認する。	電子黒板 ・p23を提示する。

4 ICT活用の効果と課題

- ・教科書の挿絵を拡大することにより、児童の興味関心をひき、学修意欲につながった。
- ・電子黒板に本文を提示し、色を分けて線をひくことで、しごととつくりの書かれているところが分かりやすかった。またどこに線をひくのが、分かりやすかった。
- ・実物投影機でワークシートを写しだすことが意欲につながった。

※この指導略案は公開授業で使用しました。

I C T活用研究員学習指導略案フォーマット（研究紀要用）

第 3.4.5 学年（支援学級）図工科学習指導略案

授業者 箕面市立萱野北小学校 氏名 丸山 智美

- 1 単元名 クリスマスカードを作ろう
- 2 本時の目標 はさみを使うことができる。
- 3 本時の展開

PC コンピュータ 電 電子黒板

学習活動（主発問・内容）	I C T活用の流れ
1 興味・関心をもつ。 ・クリスマスカードの見本を見せて、イメージを掴ませる。	・クリスマスカードの見本を見せて、イメージを掴ませる。
2 学習課題を把握する 学習課題 はさみを使うことができる。 ・事前に実物投影機で撮影し、USB に保存したはさみの持ち方や使用法の動画を見せる。	電 PC ・動画で、はさみの使い方を客観的に見ることによって、正しい使い方を理解させる。
3 読み取る・深める ・画像を見ながらゆっくり画用紙を切らせる。	電 PC ・動画を一時停止させながらゆっくり画用紙を切る。
5 まとめをする ・自分で画用紙を切らせる。	・持ち方や使用法に注意しながら、自分で画用紙を切る。

4 I C T活用の効果と課題

- ・電子黒板で動きを見ることで、客観的に動きを把握することができる。

ICT活用研究員学習指導略案フォーマット（研究紀要用）

第3学年 社会科学学習指導略案

授業者 箕面市立第一中学校 鈴木孝浩

1 単元名 現在の民主政治と社会 (5) 政党と政治

2 本時の目標

- ・政党のはたらきや役割を理解する。
- ・政権に関わる政党と、そうでない政党について理解する。

3 本時の展開

学習活動（主発問・内容）	ICT活用の流れ
学習課題 政党について知ろう。 ・電子黒板に映し出される、現在の内閣総理大臣をはじめとする、おもな政治家の顔写真をクイズ形式で答える。 ・政党と政党政治について学習する。 ●政党 ●政党政治 ・政党と政権の関係について学習する。 ●与党 ●野党 ●連立政権 ・本日の学習内容をまとめる。	
	○電子黒板に、現在のおもな政治家の顔写真をクイズ形式で表示していく。 PC・電 ○配布した学習プリント内にある図版を、電子黒板にも表示し、電子黒板専用のペンを用いて書き込みながら説明する。 PC・電 ○パワーポイントのアニメーション機能を利用したスライドを電子黒板に映し、与党や野党、連立政権について説明をする。 PC・電 ○NHK for school 内にあるクリップ映像（「政党」）を電子黒板に映す。 PC・電

※ICT活用の流れ内の **PC**や**電**は、それぞれ次の意味を示しています。

PC コンピュータ **電** 電子黒板

4 ICT活用の効果と課題

- ・本時の導入時に、教師の口頭説明よりも電子黒板を用いて政治家の顔写真を表示することで、生徒が興味を持って授業に取り組むことができた。
- ・政党や与党などの語句について、パワーポイントのアニメーション機能を用いたスライドを電子黒板に表示することで、生徒に分かりやすく説明ができ、学習内容の理解を促すことができた。また、生徒からも電子黒板を利用することを歓迎するコメントも聞かれた。
- ・PCや電子黒板、パワーポイントなど、ハード・ソフト両面の準備に時間がかかった。
- ・動画やパワーポイントのスライドなど、表示する資料内容の精選が今以上に必要であると感じられた。

第1学年 数学科学習指導略案

授業者 箕面市立第五中学校

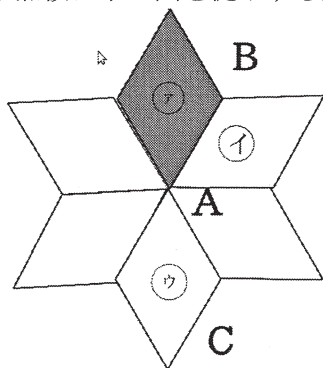
上山 佐弥佳

1 単元名 平面図形 図形の移動

2 本時の目標

基本となる移動には、平行移動、回転移動、対称移動の3つがあることを知り、それぞれの移動の仕方について理解する。

3 本時の展開

学習活動（主発問・内容）	I C T活用の流れ
1 興味・関心をもつ 課題提示 右の図形は合同なひし形を組み合わせたものです。（ア）を（イ）や（ウ）に移動させるにはどうしたらいいか。	電子黒板に下の図を提示する。 
2 自力解決をする 言語活動を用いる 一人で考える（他の人に自分の考えを説明できるようにする。） →他の人と説明し合う →発表	発表時には電子黒板のペン機能を用いて、生徒の発表の説明を書き示す。
3 課題把握を行う 平行移動 回転移動 対称移動とはどんな移動かを説明する。 これからこの3つの移動について学んでいくことを伝える。	電子黒板でスライドショーを用いて移動の様子を動画で生徒に見せる。
4 まとめをする 平行移動、回転移動、対称移動がどんな移動かをもう一度確認をする。	電子黒板でもう一度見せる。

4 I C T活用の効果と課題

- 図形の移動については、実際の移動の様子を動画でみることが出来、生徒にとっては分かりやすかった。また、動画を用いることで生徒の興味を引くことができた。

※この指導略案は公開授業で使用しました。

ICT活用研究員学習指導略案フォーマット（研究紀要用）

第2学年 道徳科学習指導略案

授業者 箕面市立第六学校 氏名 高田健一

- 1 単元名 考えよう！デートDV ～わたしメッセージって、使えるやん！？～
- 2 本時の目標 「わたしメッセージ」/対等な関係を思い出し、映画「赤い糸」やマンガからDV・デートDVについて考える。

3 本時の展開

学習活動（主発問・内容）	ICT活用の流れ
1 映画「赤い糸」を視聴する ワークシートを配布する。 感じたことを自由に書かせる	電子黒板を使って授業をする。 映画「赤い糸」を視聴する
2 読み取る・考える 事前アンケートの結果を知る さまざまな考えがあることを確認する マンガで男女の関係を考える 対等でないことに気づかせる 対等でない関係が暴力を生むことを知る 対等でない関係にはいろいろあることにふれる 暴力の種類を知る 5つの暴力の特性について知る 映画「赤い糸」を視聴する2 社会的暴力の具体例として見せる DV・デートDVという言葉を知る 意味を正確に説明する DV防止法について知る 施行されたのが2001年と最近であることにふれる 相談窓口について知る 箕面市にも相談できる場所があることのふれる	映画「赤い糸」を視聴する2
3 振り返る・あてはめる まとめを聞く 60%の人も危険因子を持っていることにふれる	

4 ICT活用の効果と課題

- ・映像などを使って生徒の興味関心を引く題材を使うことができる。
- ・映像編集に時間がかかる。

ICT活用研究員学習指導略案フォーマット（研究紀要用）

第6学年

算数科学習指導略案

箕面市立 萱野小学校 氏名 齊藤 直子

1 単元名 「ICTで意見交流型学習」

- 2 本時の目標
- ・基礎的、基本的な内容の理解をさらに広げたり深めたりする。
 - ・算数への興味、関心をさらに広げる。
 - ・既習の学習内容を応用問題で適切に活用できるようにする。

3 本時の展開

学習活動（主発問・内容）	ICT活用の流れ
1. 問題の意味をつかむ	・わかりにくい場合はIWBの動画で確認する。
学習課題 点Eが長方形ABCDの頂点A⇒B⇒C⇒Dと移動したとき、 三角形の面積はどのようにかわりますか。	
2. 問題の答えを考え、なぜそうなるのか自分の考えを表す（自力解決）	・タブレットPCの図やグラフを使い、自分の考えをわかりやすくまとめる。
3. グループでそれぞれの考えを交流する（練り上げ、学び合い）	・それぞれの解答についてタブレットPCを見せ合いながら交流する。
4. 全体で考えを交流する（練り上げ、学び合い）	・IWBに映し出し、他の人の意見と比較検討する。（アドバンテージクラス使用）
5. 答えを全体で確認する（練り上げ、学び合い）	・IWBとタブレットPCで、答えを確認する。
6. ふりかえりをする	・わかったこと、難しかったこと、友だちのよさ、ICT機器を使つての感想などをふりかえる。

4 ICT活用の効果と課題

- ・ノートの工夫が簡単にできる（色分け、間違えてもすぐに消せるなど）。
- ・ペン入力、キーボード入力、どちらも可能。
- ・課題（カラーのもの）を一斉配信、一斉回収できる。
- ・図を拡大して自分の考えを書きこむことができる。
- ・全体で考えを交流する時に、瞬時に子どもが作ったノートを全体に大きく提示することができる。また、全体に提示しながらノートに書きこみを追加することができる。
- ・自分のノートを持ち帰るには印刷等が必要。
- ・機器トラブルにより、課題の配信等で時間的なロスが生まれることがあるので、紙の課題も用意しておく方がいい。

※2月3日（金）萱野小学校第20回公開研究会で6年生が行った授業です。

ICT活用研究員学習指導略案フォーマット（研究紀要用）

第6学年 理科学習指導略案

授業者 箕面市立東小学校 氏名 青野 遼

1 単元名 てこのはたらき

2 本時の目標

- ・てこは身の回りのどのような道具に利用されているかを知る。(知識・理解)
- ・身の回りのてこを利用した道具における支点、力点、作用点を見つけることができる。(技能)

3 本時の展開

学習活動（主発問・内容）	ICT活用の流れ
前時の復習 1 興味・関心をもつ ・身の回りの道具の中からてこの原理を用いているであろうものを出す。	
2 学習課題を把握する 学習課題 てこは身の回りのどのような道具に利用されているだろうか ・課題を把握し、グループ内で持ってきた物の中で、てこの原理が使われているものが、どれであるかをもう一度予想する。	
3 追求活動をする（実験など） ・実際に物を使用して、てこを用いているものをグループ内で決定していく。 ・同時にてこの支点、力点、作用点がどの部分になるのか、グループ内で考える。 4 練り上げる ・各グループで発表を行い、他のグループからの意見等で練り上げていく。	実・大型モニター 各班の発表を手元での作業が行われる場合は、拡大して提示する。
5 まとめをする ・てこを利用した道具は、身の回りにたくさんあり、生活を便利にしている。 ・道具によって支点、力点、作用点の位置が異なること。 以上、二点をまとめとしておさえる。	まとめとして、 NHK教育番組 6年 理科（15分）を視聴する。

4 ICT活用の効果と課題

- ・発表において、ピンセットやハサミを使用したのもので、実物投影機の利用は、有効であった。

I C T活用研究員学習指導略案フォーマット（研究紀要用）

第 6 学年 国語科学習指導略案

授業者 箕面市立西南小学校 氏名 神崎 有香

1 単元名 「生きる／言葉の橋」 谷川俊太郎／宮地裕

2 本時の目標 詩を読んで、考えを広げたり深めたりする

3 本時の展開

学習活動（主発問・内容）	I C T活用の流れ
1 興味・関心をもつ 「生きる」という題を見てどんなことが生きることにつながるのかを考える。 「生きる」のイメージマップを作り、どんどん想像を広げる。	（電）板書していく。 （実）児童のプリントを実物投影機に写し、写真で残す。 （次時に振り返るために残しておく）
2 学習課題を把握する ・第一連、体で感じる感覚の「生きる」を自分なりに考える。 ・第二連、美しいものとの出会いの「生きる」を自分なりに考える。	イメージマップの中から、体で感じる感覚の「生きる」を抜きだし、詩を作ってみる。 （電）読む。 イメージマップの中から、体で感じる感覚の「生きる」を抜きだし、詩を作ってみる。 （電）読む。
3 読み取る・深める 筆者の考える、体で感じる感覚の「生きる」と美しいものとの出会いの「生きる」を読む。 自分の考えた「生きる」と筆者の考える「生きる」を読み比べる。	（電）谷川俊太郎「生きる」を1行ずつ出す。
4 伝え合う・交流する 「生きる」の詩を班で交流する。 イメージマップで出した「生きる」には他にどんなものがあるか出す。	（電）イメージマップを出す。
5 まとめをする 他に感情を表現できる自由の「生きる」、いま生きている瞬間の「生きる」などどんな「生きる」があるか考え、まとめる。 次時につなげる。	

4 I C T活用の効果と課題

（効果）

- ・個人のイメージマップをすぐに全体で共有することができる。
- ・そのことが児童にとっては嬉しく、学習に意欲が出る。
- ・教科書に載っている詩と児童の考えた詩を読み比べることができる。
- ・教科書の詩を効果を使って出すこと（下から上へのスライド）で、興味を持って読み進めることができる。

（課題）

- ・黒板、電子ボード、自分のプリントと見なければいけないものがたくさんあるので、少し大変な事。
- ・電子ボードの準備が大変な事。

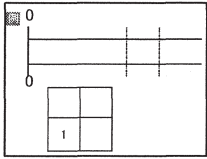
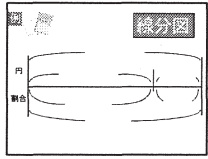
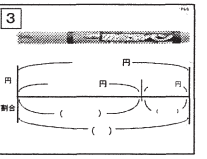
ICT活用研究員学習指導略案フォーマット（研究紀要用）

第5学年 算数科学習指導略案

授業者 箕面市立萱野東小学校

岡村 直哉

- 1 単元名 比べ方を考えよう（2） 百分率とグラフ
- 2 本時の目標
和や差を含んだ割合の場合について、比較量や基準量を求めることができる。
- 3 ICT環境
[実]・実物投影機 [PC]・コンピューター [電]・電子黒板
- 4 本時の展開

学習活動（主発問・内容）	ICT活用の流れ
○興味・関心を持たせる。 割合フラッシュを行い、学習への集中力を高める。 ○課題を把握する。 定価100円のノートを、 定価の70%で買いました。 いくらで買いましたか。 学習課題 定価と割引から、代金を求める方法を考えよう。 ○自力解決する。 ・ワークシートに式と答えを書く。 ○考えを発表する。 ・ワークシートを拡大しながら、説明する。 ○考え方を説明する。 ・電子ボードに書き込みながら、定価、割引、代金を確認する。 ○まとめる ・本時の学習をまとめる。    ・次時の予告を聞く。	課題を提示 教科書に沿った自作の電子教材を使用することで、理解を深められる。 [電] [実] 拡大して、説明できるように [実]のカメラを利用し取りこむ。 [電]

5 ICT活用の効果と課題

- ・今、何を求めているのかが視覚的によくわかり、情報の整理がしやすい。
- ・電子ボード、ワークシートを活用することで、見るだけの授業展開ではなくなる。
- ・継続的に使用することで、電子ボードをめずらしいものにしないことが求められる。

ICT活用研究員学習指導略案フォーマット（研究紀要用）

第5学年 社会科学習指導略案

授業者 箕面市立 豊川北小学校 氏名 井田淳子

- 1 単元名 情報を伝える
- 2 本時の目標 新聞の番組欄を調べることにより、放送局が放送している番組について関心をもつことができる。
- 3 本時の展開

学習活動（主発問・内容）	ICT活用の流れ
前時の復習 1 興味・関心をもつ 自分や家族がふだん、よく見るテレビ番組を出し合う。 番組の種類わけをする。 ・ 娯楽番組 ・ 教養番組 ・ 報道番組	
2 調べる・自分の考えを発表する 新聞のテレビ欄を調べて、気がついたことを話し合う。 ・ 番組の種類と時間帯を調べ、その特徴を考える。 ・ 報道番組を含めたニュース番組に赤で色を塗り、その時間帯や多さについて考える。	電子黒板・PC デジタル教科書「新聞のテレビ欄」を拡大し、話し合いが活性化するようにする。
3 学習課題を把握する ニュース番組を視聴し、気づいたことや疑問を話し合う。 ・ ニュースキャスターについて関心を持つ。 ・ キャスターが持っている原稿やテロップ、映像などに関心を持つ。	テレビ NHKのニュースを視聴する。
4 まとめをする 気づいたことや疑問に思ったことをもとに、次の授業から、テレビ番組ができるまでを学習していくことを知る。	

4 ICT活用の効果と課題

- ・ デジタル教科書を利用すると、子どもたちの発表や、交流がスムーズに行うことができる。
- ・ その日のニュースを見せてあげたかったが、地デジ化にともない、教室のテレビが視聴できないため、DVDに撮って、見せた。

I C T 活用研究員学習指導略案フォーマット（研究紀要用）

第 6 学年 社会科学習指導略案

授業者 箕面市立豊川南小学校 氏名 三宅 美典

- 1 単元名 わたしたちのくらしと政治
- 2 本時の目標 箕面市の高齢者福祉の取り組みや施設について調べる
- 3 本時の展開

学習活動（主発問・内容）	I C T 活用の流れ
前時の復習 1 興味・関心をもつ 教科書の写真を見て、気づいたり思ったりしたことを発表し合う。	
2 学習課題を把握する 学習課題 箕面市の高齢者福祉の取り組みや施設について調べよう ・WS で調べる内容を確認する ・自分の力で目的の場所までたどり着けるか調べてみる（時間で区切る） ・調べることができた児童に見本をみせてもらう（大型ディスプレイで映す）	PC 室児童機 大型ディスプレイ
3 調べる ・わからない言葉はチェックしておく ・時間があればその他についても調べてよい 4 交流する ・班で、自分の調べたことを発表し合う ・わからなかった言葉を確認する ○これらの取り組みや施設は、高齢者やその家族にとってどのような役割をはたしているのだろう 5 自分の考えを発表する	○取り組み名／対象者／内容など ○施設名／目的／利用者／事業内容など
6 まとめをする ・高齢者やその家族のために様々な取り組みや施設がある。それらは、高齢者やその家族が生きがいをもって安心してくらししていることに役立っている。	

4 I C T 活用の効果と課題

- ・実際に施設に見学に行くことができなくても、施設の様子や取り組みについて知ることができた。
- ・一人一人が自分の興味と進度に合わせて作業することができた
- ・WS にパンくずリストを載せることで時間の短縮にはなったが、調べる力をつけるという点では課題が残る
- ・一般向けの HP から調べると、言葉が難しく、内容の理解が難しい。言葉の意味を推測して自分の知っている言葉に置き換える練習も必要。

I C T活用研究員学習指導略案フォーマット（研究紀要用）

第 2 学年 技術科学習指導略案

授業者 箕面市立第二中学校

氏名 田中 順士

1 単元名

テーブルタップ製作

2 本時の目標

テーブルタップを完成させ保守点検と実習での振り返りをする。

3 本時の展開

学習活動（主発問・内容）	I C T活用の流れ
前時の復習 1 興味・関心をもつ 前時の内容を確認し、相手の間違いを探し指摘しあう。	前時にデジタルカメラで撮影した生徒の作業の様子を良い例、悪い例として電子黒板に映した動画で復習をする。
2 学習課題を把握する 本時の作業を確認し、完成への見通しをもたせる。	本時の作業内容を実物投影機を使用して実践し、生徒に視覚で学べるように活用した。
3 追求活動をする（実験など） 完成したテーブルタップの保守点検をし、安全性を確かめる。 班が全員完成し保守点検が終われば小型電球をテーブルタップにつなげ点灯させる。 4 練り上げる 保守点検を重視し、ワークシートを使い記入するようにした。	
5 まとめをする ワークシートで振り返り項目に記入させる。	

4 I C T活用の効果と課題

- ・作業内容を視覚で確認できたので、授業効率が上がった。
- ・前時の復習を動画で確認でき失敗例を提示することで、生徒の作業能力を上げることができた。
- ・課題は準備に時間をとられることです。

第三学年 技術科学習指導略案

授業者 箕面市立第三中学校 氏名 天岸 大輔

1: 単元名 「自分新聞」作成

2: 本時の目標 普段、自分自身について振り返る事という機会があまりないので、自分を見つめ直させることと、ソフト使用の復習をさせる。

3: 本時の展開

学習活動(主発問・内容)	ICT 活用の流れ
前時の復習 「自分新聞」の中身について再度説明し、作成～完成までの流れをつかませる。 1 興味・関心をもつ ・完成例までの流れを見せることにより、自分新聞のイメージを浮かべさせる。	「自分新聞」の完成例までの流れを、プロジェクトを使ってホワイトボードに映す。
2 学習課題を把握する ・自分自身の出来事や、自分に関連のあった事などを振り返り、短所・長所(好きな事、嫌いな事)を発見させる。	・文化祭、体育大会の生徒の活動写真を配布して、生徒が写真を引用できるように準備しておき、文書だけではなく写真を活用した新聞作りに取りかからせる。
3 追求活動をする(実験など) ・生徒の作成内容や、工夫の仕方についてのアドバイスや質問応答に答えていき、新聞らしさが出るようにする。 ・他に不具合や故障がないか点検させる。 4 練り上げる ・生徒自身に最終確認させて、完成した子からまずは「保存」させる。	・印刷のプレビューで確認させることと、プレビューを閉じて、保存させる。
5 まとめをする ・完成できた子から順に、今行った内容のまとめノートを書かせていく。	・ノートの内容は、パソコンの共有フォルダに入れておき、生徒個人のパソコンのモニターで確認できる。

4: ICT 活用の効果と課題

- ・プレゼンテーションソフトを活用することによって、自分の発表したい内容を簡潔にまとめることと、写真を添付する方法を知る効果がある。
- ・授業が進行するに連れ、徐々に遅れが見受けられる生徒が出てくるので、スムーズに授業が進まなくなることへの対処がまだまだ必要である。

※この指導略案は公開授業で使用しました。

I C T 活用研究員学習指導略案フォーマット（研究紀要用）

第 1 学年 技術科学習指導略案

授業者 箕面市立第四中学校 氏名 笠井 守

1 単元名 製品の設計

2 本時の目標

ツールを活用して、1 日のメニューを絵に描く。

3 本時の展開

学習活動（主発問・内容）	I C T 活用の流れ
前時の復習	
1 興味・関心をもつ ・ファイルの開き方について学習する。 ・ツールの使い方について学習する。	P C ・電源をいれる。 ・ログインする。 ・オープンオフィス（図形描画）を立ち上げる。
2 学習課題を把握する	
学習課題 各種ツールを活用し目的の絵を完成させる。（オープンオフィス DRAW）	
	・前回のファイルを立ち上げる。
3 追求活動をする（実験など） ・未知のツールについて、自力で使い方を考えさせる。 （必要に応じて、説明する。）	・各種ツールを活用して、メニューの完成を目指すさせる。
4 練り上げる ・自分の使ったツールについて、周りの必要な人に教える。	・ファイルの保存→ファイル名を変えて保存させる。
5 まとめをする ・次回の連絡（メニューの完成をする。 完成した人は、印刷をする。）	・使用ソフトの終了 ・コンピュータを正しく終了させる。

4 I C T 活用の効果と課題

- ・コンピュータの使い方の習得ができた。
- ・ファイルを開く、保存をする、印刷するができた。

ICT活用研究員学習指導略案フォーマット（研究紀要用）

第5学年 総合的な学習指導略案

授業者 箕面市立彩都の丘小学校 神原里恵

1 単元名

「彩都の丘学園のいいところを伝えるラジオ番組を作ろう」

2 本時の目標

- ・彩都の丘学園のいいところを伝えるため、発信したいことについての情報を収集し、発信するための準備をする。
- ・インタビューする時に大切なことを知り、相手に合わせた方法で他の学年の児童・生徒にインタビューする。
- ・ラジオ番組づくりに向けたインタビュー活動をふりかえり、学びをとらえる。

3 本時の展開

学習活動（主発問・内容）	ICT活用の流れ
前時の復習 ・自分たちがとらえた「彩都の丘学園のよさ」を確認する。 1 興味・関心をもつ ・「彩都の丘学園のよさ」を伝えるラジオ番組を作ることを確認する。 ・ラジオ番組作成のスタッフ（プロデューサー、パーソナリティー）と出会う。	★みのおFM タッキー 816の方との協働による授業 （彩都の丘学園のよさをたくさんの人たちに知ってもらいたいという願いから、子どもたちがその方法について話し合い、ラジオ番組作成を企画した。）
2 学習課題を把握する	
学習課題 彩都の丘学園のいいところを伝えるラジオ番組を作ろう	
・「ラジオ番組ができるまでの流れについて学習すること」「他学年の児童・生徒にインタビューすること」を確認する。	
3 探究する ①ラジオ番組作成スタッフから、ラジオ番組の特性や番組ができるまでの流れについてのお話を聞き、さらに知りたいことなどを質問する。 ②1年、6年、9年、先生に「彩都の丘学園のいいところ」についてインタビューする。	・ラジオ番組の特性や番組ができるまでの流れについて理解する。 ・インタビュー活動を行う時に大切なことについて知る。 インタビュー活動で大切なこと ・インタビューの相手が話しやすいように質問の仕方などを工夫する。（特に、低学年の子に対しては、易しい言葉に言い換えたり、目の高さを合わせたりなどの工夫をする。 ・インタビュー活動を行う時に大切なことをふまえてインタビューし、ICレコーダーを活用し収録する。
4 ふりかえる ・インタビュー活動を振り返り、うまくいった点、工夫が必要だった点を話し合う。 ・自分たちが学んだことや感想を入れ、番組のしめとなる部分を録音する。	・情報を収集したり、発信したりするときに気をつけることを確認する。 ・活動を通して学んだことを含めて収録する。

4 ICT活用の効果と課題

- ・ラジオというメディアの特性に合わせ、インタビューという形式で情報収集し、発信することができた。今後情報を発信する立場になった時に、メディアの特性を活かした情報収集、発信の方法を考える手がかりになったのではないかな。
- ・インタビューでは、相手によって言葉や方法を工夫しなければならないことを実感し、次に活かしたいことを具体的に述べていた。

第4学年 総合科学習指導略案

授業者 箕面市立 萱野小学校 氏名 斉藤 直子

1 単元名 「インターネットで検索してみよう！」

2 本時の目標

- ・検索シミュレーターでの体験を通じて、インターネットから自分の求めている情報を探し出すための知識や方法を身につける。
- ・インターネットには正しい情報だけでなく、間違った情報があることを理解する。
- ・インターネットの利点と気をつけなければいけないことを理解する。

3 本時の展開

学習活動（主発問・内容）		I C T活用の流れ	
導入 (3分)	・インターネットに対するイメージや、インターネットでできることについて発表する。 ・これからインターネットを使って「土星の輪の正体」について調べることを知る。		
展開 (27分)	・具体的な検索方法や情報の絞り込み方を知る。（5分） ・検索シミュレーター（シナリオモード）で検索を体験する。 ・わかったことをワークシートに書きだす。（10分） ・情報の確かさについて考える。（6分） ・情報は送り手の意図によって作られていることを知る。（6分）	・IWBで手順を説明する。 ・学習用ウェブサイトの「掲示板」と「なぞの惑星・土星」を取り上げて解説する。 ・学習用ウェブサイトの「宇宙ものがたり—その3」と「土星」を取り上げて解説する。	・一人1台パソコンを使用。 ・話に集中できるようにロック機能を使用。
まとめ (15分)	・インターネットは間違った情報を含め多種多様な情報があり、複数のウェブサイトを見比べて情報を選択することが重要であることを理解する。（3分） ・インターネットの特性について理解する。（5分） ・インターネットを使う時に大事なことを交流する。（2分） ・ふりかえりをワークシートに書く（5分）	・解説コンテンツ「正しい情報を見抜こう」「この情報が全てかな？」「ウソやうわさにまどわされないよう」「まとめ」を提示して説明する。 ・解説コンテンツの「まとめ」を提示しながら解説する。	・ロック中 ・解説コンテンツ（自習用）使用 ・ロック中

「土星の輪の正体」の調べ方

- ① インターネット エクスプローラー
Internet Explorerを始める
↓
- ② お気に入りから「伸ばそう！ ICTメディア
リアリテラシー」をえらび
↓
- ③ 「ICTシミュレーター」をえらび
↓
- ④ IDとパスワードを入力する
ID→user01 パスワード→user01
(数字はパソコンの番号の下2けた)
↓
- ⑤ 「シナリオモード」をえらび
↓
- ⑥ 一番上の「インターネットで調べよう！
検索シミュレーター」をえらび
↓
- ⑦ 検さくキーワードを入力して検さくする

「インターネット」について知る方法^{し ほうほう}

⑧ 「伸ばそう！CTメディアリテラシー」

のトップ画面から

「^{かいせつ}解説コンテンツ」をえらび



⑨ 上から2番目の「わくわく！ハラハラ？

インターネット」をえらび



⑩ 一番上の「インターネットの^よ良いところ」の自習用をえらび



⑪ 子ども用をえらび



⑫ 1ページから順番に見る



⑬ 全部のページを見たらすすむ→をえらび



⑭ 同じように、読みすすめる

「土星」での検索結果

		内容	検索結果での見え方	本当は？
1	なぞの惑星・土星	最初は正しい情報：土星の大きさ、太陽からの距離。 途中からうその情報：土星人の話。ゴミの話。	正しい	×
2	宇宙ものがたり—その3	本当のことだが、欲しい情報ではない。 ：大きさ、太陽からの距離、英語名、ガリレイのこと等	正しい	×
3	宇宙には不思議なことがいっぱい！	最初は正しいかもしれないが、途中からうその情報と商品の宣伝。 ：サタニウム(?)を含む究極の健康食品	正しい	×
4	有限会社土星商会	商品紹介	不要	×
5	土星	宇宙解説サイト ：欲しい情報と一致している	正しい	○
6	土星BLOG	愛犬「土星」のブログ。輪→首輪のこと。	違いそう	×
7	宇宙物質研究科・永井研究室	正しいが、欲しい情報としては足りない。 ：土星の輪は氷でできている。 ：「微粒子プラズマ」の状態である。	正しい	△
8	星座占い	ただの星座占い。「土星」が文中に出てくる。	不要	×
9	掲示板	個人が勝手に書き込んでいる情報なので、真偽はわからない。 土星の輪は大きな岩でできている	？	×

検索のポイント

- ・必要なキーワードを、組み合わせたり、言い換えたりして、いくつかのパターンで検索してみる。
→複数のウェブサイトを見比べることにつながる。
- ・見つけた情報をそのまま写すのではなく、いくつかのサイトの中から、本当に必要な情報だけを選択する。



インターネットで^{けんさく}検索してみよう！

4年（ ）組 名前（ ）

☆「土星の輪^わの正^{しょうたい}体」について、調^{しら}べてわかったことを書きましょう。

☆今日の学習をふりかえて

- ・インターネットを使う時に大事なこと
 - ・自分が気をつけようと思うこと
- などを書きましょう。

第6学年 総合的な学習の時間指導案

指導者 青野 遼

- 1 日時 2011年11月22日 6時限目
- 2 学年・クラス (30名)
- 3 場所 教室
- 4 単元名 ヒロシマから世界へ
- 5 単元設定の理由
指導にあたって

学習指導要領にも明記されているように、総合的な学習の時間においては、探求の過程で①課題の設定、②情報の収集、③整理・分析、④まとめ・表現、という4段階がある。その中でも②と③の活動において、いかに自らが設定した課題に対して有益な情報を見つけ、さらにその情報を精選できるかということが以降のまとめ・表現の活動をする中でもスムーズな活動を助けるものになると考えた。情報教育の観点から見ても、今日の情報化社会において児童が触れる情報の多さは、数年前の比較にならない状況である。そんな情報で溢れ返った社会の中で、自らが必要なものを選び、獲得していく事は、社会を生きていく上で必要な「生きる力」であると考え。児童の情報機器を扱うスキル面で見ると、バラつきはあるが生活の中にパソコンや携帯電話といった端末が身近になっている現状からも随分と向上しているように思われる。しかし、こと情報の取り扱いや情報の精選といった部分では、まだまだ鍛錬が必要であると感じている。このことから学校教育の中で児童に情報を精選して扱うすべを身につけさせる必要があると考える。

（学校における情報教育の必要性及び情報教育の進め方については、別紙資料あり）

本学級の児童においては、高学年に見られる思春期の気恥ずかしさは、さほど見られず、教科の授業においても活発に発言ができる児童が多い。本校は、2年前より研究課題に「書く力」の育成を設定し、学習課題に対する自らの思いや考え方を書き表す事を続けてきた。その成果の一つとして、多くの児童は、「書く」と言う活動についてさほど抵抗を感じていない。しかし、その一方で調べ学習になると書く活動に抵抗がない分、本の文章を丸々書く、H.P.にある文章を丸ごと写すいわゆる「写し学習」に陥る場合が多い。とはいえ、現状の「調べ学習」＝「写し学習」になっている児童の姿を劇的に変換させる事は、困難であると考え、今回の単元では、いくつかのステップの中で児童が最初「写し学習」をしたとしても、グループで情報を練り上げる中で「写し学習」で得た情報が精選されるように活動を組み立てた。また、グループ活動前の個人作業の段階でワークシートに一人ひとりが課題を設定できるようにし、個人で情報を探す活動を取り入れた。それによって、グループ内で全員が意見を発表できる場を設けた。

6 単元目標

①学習方法に関すること

- ・平和学習を通して、今自分自身にできる事を見つけ実践することができる。

②自分自身に関すること

- ・多くの情報の中から自らの興味関心のある情報を精選し、まとめることができる。

③他者や社会とのかかわりに関すること

- ・他者と協力し一つの作品を完成させる中で多面的なものの見方を見につけることができる。

今回の研究部会
における目標

7 評価規準 東小学校 「総合的な学習の時間」における育てたい資質・能力・態度と評価規準

	①学習方法に関すること		②自分自身に関すること		③他者や社会とのかかわりに 関すること	
	ふり返りいかす力	書き表す力	意思決定する力	目標設定及び課題解決力	自分とは違う意見や他者の考えを受け入れる態度	他者と協同し課題を解決する力
1・2年 【生活科】	自分の行った学習についてふり返ることができる	文章で自分の考えを分かりやすく表現することができる	身の回りの事象に興味・関心を持つことができる	目標を立てて行動することができる	友だちのいいところに気づき、認め合うことができる	集団で課題に取り組むことができる
3・4年	ふり返りを通して、学習に対する理解を深めることができる	相手に応じて自分の考え等をわかりやすくまとめ、表現することができる	興味・関心を持った物事について自分から取り組むことができる	自分なりの予想をもち、解決のための計画を立てることができる	相手の思いや願いを感じ取ることができる	お互いの長所を理解し役割分担をする中で課題に取り組むことができる
5・6年	ア) 学習をふり返り、自分で工夫して生活に生かすことができる	イ) 伝えるべき事項を取捨選択し、わかりやすくまとめ、表現することができる	ア) 興味関心を持った物事に対して取り組む中で目標の設定及び実践を行う	イ) 計画をもとに、見通しを持ち、工夫して自力で課題を解決することができる	ア) 相手に共感しながら交流を深めることができる	イ) 的確な役割分担を行い、お互いを補填し合う中で課題を解決することができる



ベースとなる3つの力（六中校区）

自分をみつめふりかえる力 よさ 改善点	自分の思いや考えを表現する力 話す・書く	相手の立場にたって 他者の話や思いを聴く力
------------------------	-------------------------	--------------------------

8 指導計画（全11時間＋修学旅行 本時第6時）及び評価計画

時数	過程	小単元	学習内容（ねらい）	①		②		③		評価規準 評価方法
				ア	イ	ア	イ	ア	イ	
1	ふれる	1	大テーマを考える。 （全体でのブレインストーミング）			○		○		②－ア 自分のイメージを表現できる。 ③－ア 他者の意見を受容できる。
		2	修学旅行で実際に資料等を見学し、テーマについての情報を得る。			○				②－ア テーマに沿った情報を集めることができる。
1	つかむ	3	大テーマについて個人でより詳しい小テーマを考える。 （個人でのブレインストーミング）			○	○			②－ア 自分のイメージを表現できる。 ②－イ 自らのテーマをみつめ深化できる。
1		4	小テーマについての情報を探す。（情報のありかを知る）		○	○				①－イ 情報のありかを明らかにできる。 ②－ア 自分の課題について優先順位をつけて調べられる。
1		5	探し出した情報を説明用に端的にまとめる。	○	○					①－ア 似た項目になっていないか等自分の情報を見直せる。 ①－イ 集めた情報の中で説明に必要な部分を精選できる。
1		6 （本時）	グループでそれぞれの考えた小テーマについて発表し合い、グループ内での小テーマ（見出し）を絞る。		○	○		○		①－イ 他者に自分の小テーマについての説明ができる。 ②－ア グループの話し合いに積極的に参加することができる。 ③－ア 相手の意見について肯定的な態度で話し合いを進めることができる。
2		7	決定した見出しについて、グループごとに調べる。			○	○		○	②－ア グループ活動に積極的に参加できる。 ②－イ 自分が調べるべき内容を理解し調べることができる。 ③－イ グループ内で作業内容を分担し、活動できる。
3	あらわす	8	見出しの構成、表現を考えながらまとめる。	○				○	○	①－ア 資料を作り上げる中で、自らの考えも加えることができる。 ③－ア グループ内外の意見を取り入れて作業を進められる。 ③－イ お互いの特性を見極めて役割分担を行い、実践できる。
1	いかす	9	お互いのグループの完成した作品を見て「平和」について自分たちが身近でできることを考える。	○						①－ア 単元を振り返り、「平和」に対する自らの考えを持つことができる。

9 本時の目標

10 本時 評価の観点 評価規準

書き表す力 (①ーイ) . . . 他者に自分の小テーマについての説明ができる。

意思決定する力 (②ーア) . . . グループの話し合いに積極的に参加することができる。

自分とは違う意見や他者の考えを受け入れる態度 (③ーア)

. . . 相手の意見について肯定的な態度で話し合いを進めることができる。

11 本時の展開

時間	学習活動 (・発問)	指導上の留意点	評価 評価方法
5	導入 ○前時までの振り返り 展開 ○本時のめあてを知る		
	グループごとに話し合い、見出しを決めよう。		
15	ふれる・つかむ ○グループで作る作品の まよめの全容を知る。 ○付箋に個人の見出しを書く。 あらわす ○各グループ内で持ち寄った見 出しを互いに発表しながら見 出しのグルーピングを行う。	○ まとめる の段階で作る際の イメージを持たせる。 ○グルーピングの際、注意しな ければならない事項を伝える。	○グループの話し合い に参加できている。 (②ーア) ○自分の考えをワーク シートを見ながら相 手に伝えようとして いる。(①ーイ) ○聞き手として、相手 の考えを肯定的に受 け止められている。 (③ーア)
25	○グループ内で自分たちのまと めを作る時に必要な見出しを 選ぶ。 (根拠を持った選定)	○「～だからこの見出しを選ん だ。」と言うような、根拠を付 随させた発表の形式を取らせ る。 ○発表等、考えのまとまっていな い児童、発表するのが苦手な児 童に対しては、ワークシートに 沿って発表できるよう支援す る。 ○周りの考えに対しては、頭から 否定する態度を取らないよう にさせる。 ○「～だから・・・の方がより今 回のテーマに合っている。」と いうような考え方に立てるよう に指導する。 (事前指導も含めて)	○グループの話し合い に参加できている。 (②ーア) ○聞き手として、相手 の考えを肯定的に受 け止められている。 (③ーア)
35	いかす ○見出しが決まったら、各グル ープで見出しを短冊に書いて 前で発表する。(なぜその見出 しを選んだのか理由も発表す る。)	○同じテーマでも考えた見出しや 内容が違うことを押さえ、それ ぞれの考え方がることを認め させる。	
40	まとめ ○次時予告		

1 2 板書計画

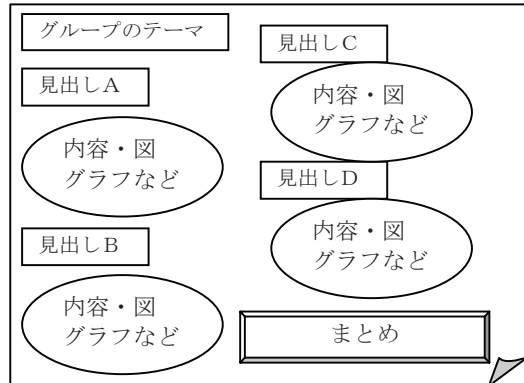
①

情報を合わせよう

めあて

『グループで話し合っ、
見出しを決めよう。』

完成形



①私たちの班は、自分たち
のテーマについて、

- ・ A
- ・ B
- ・ C
- ・ D

という側面で調べました。

②全体の流れは
A→B→C→Dです。

聞く人、読む人が興味を
持てるような「見出し」
・ 同じようなものが続く
× 平和学習に関係ない

③私たちのグループのま
とめとしては、

②

情報を合わせよう

めあて

『グループで話し合っ、
見出しを決めよう。』

完成形



決定した各グループの見出し

○人々の生活

○核・兵器

○戦争した国

○兵器の影響

資料

各論① 学習指導要領における教育の情報化

(以下、文部科学省「教育の情報化に関する手引き」より一部抜粋)

平成20年1月の中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」においては、「社会の変化への対応の観点から教科等を横断して改善すべき事項」の一つとして情報教育が挙げられているとともに、「効果的・効率的な教育を行うことにより確かな学力を確立するとともに、情報活用能力など社会の変化に対応するための子どもの力をはぐくむため、教育の情報化が重要である」などの提言がなされた。これらを踏まえ、小・中・高等学校の新学習指導要領において、情報教育、及び教科指導におけるICT活用について充実が図られた。

情報教育及びICT活用の充実等については、今回の学習指導要領の改訂において重視している事項との関係においても、「基礎的・基本的な知識・技能を習得させるとともに、それらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育成し、主体的に学習に取り組む態度を養うためには、児童生徒がコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を適切に活用できるようにすることが重要である。また、教師がこれらの情報手段や視聴覚教材、教育機器などの教材・教具を適切に活用することが重要である」とされている。(小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領解説総則編)以上を踏まえ、まず、教科指導におけるICT活用を積極的に推進することが非常に重要であるとの観点から「知識基盤社会」の時代にあつて「生きる力」の重要な要素である「情報活用能力」を身に付けることが一層求められている。

なお、情報教育の推進のためには、各教科等の指導を担う教員が、その指導の中に情報教育のねらいや内容が含まれていることを認識するとともに、情報教育の目標の3観点(情報活用の実践力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度)をバランスよく身に付けさせるよう、学校全体で計画的に情報教育を推進することが極めて重要である。

各論② 情報教育の目標

情報教育とは、児童生徒の情報活用能力の育成を図るものであり、平成9年10月の「情報化の進展に対応した初等中等教育における情報教育の推進等に関する調査研究協力者会議」第1次報告において、情報教育の目標については次の3つの観点に整理されている。

情報教育の3観点

- A 情報活用の実践力
- B 情報の科学的な理解
- C 情報社会に参画する態度

A 情報活用の実践力

課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを含めて、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる能力

B 情報の科学的な理解

情報活用の基礎となる情報手段の特性の理解と、情報を適切に扱ったり、自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法の理解

C 情報社会に参画する態度

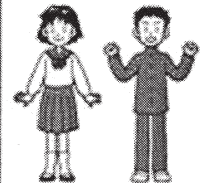
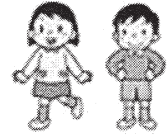
社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報に対する責任について考え、望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度

以上の3観点に従って、小学校、中学校において身に付けさせたい情報活用能力について概要を整理すると、表1のようになる。(「教育の情報化について」より)

表 1

小学校から中学校への接続

慣れ親しませる	
小学校 情報手段を適切に活用できるようにするための学習活動 ①文章を編集したり図表を作成したりする学習活動 ②様々な方法で文字や画像などの情報を収集して調べたり比較したりする学習活動 ③情報手段を使って交流する学習活動 ④調べたものをまとめたり発表したりする学習活動	基本的な操作 ①キーボードなどによる文字の入力 ②電子ファイルの保存・整理 ③インターネットの閲覧や電子メールの送受信
	情報モラル ①情報発信による他人や社会への影響について考えさせる学習活動 ②ネットワーク上のルールやマナーを守るこの意味について考えさせる学習活動 ③情報には自他の権利があることを考えさせる学習活動 ④情報には誤ったものや危険なものがあることを考えさせる学習活動 ⑤健康を害するような行動について考えさせる学習活動
中学校 情報手段を適切かつ主体的、積極的に活用できるようにするための学習活動 ①課題を解決するため自ら効果的な情報手段を選んで必要な情報を収集する学習活動 ②様々な情報源から収集した情報を比較し必要とする情報や信頼できる情報を選び取る学習活動 ③情報手段を用いて処理の仕方を工夫する学習活動 ④自分の考えなどが受け手に伝わりやすいように表現を工夫して発表したり情報を発信したりする学習活動	情報モラル ①ネットワークを利用する上での責任について考えさせる学習活動 ②基本的なルールや法律を理解し違法な行為をもたらす問題について考えさせる学習活動 ③知的財産権などの情報に関する権利を尊重することの大切さについて考えさせる学習活動 ④トラブルに遭遇したときの主体的な解決方法について考えさせる学習活動 ⑤基礎的な情報セキュリティ対策について考えさせる学習活動 ⑥健康を害するような行動について考えさせる学習活動



また、小学校、中学校での情報活用能力を育成するに当たっては、単一学年での児童の発達段階に合わせて、「基本的な操作」から「適切な情報活用」、「情報モラル」を意識した活動を教科等で組み込み、総合的な学習の時間においても体系的に取り入れることによって、これの習得を目指すものである。情報活用能力育成の構造については、図1に示す。

情報活用能力育成のスパイラル構造

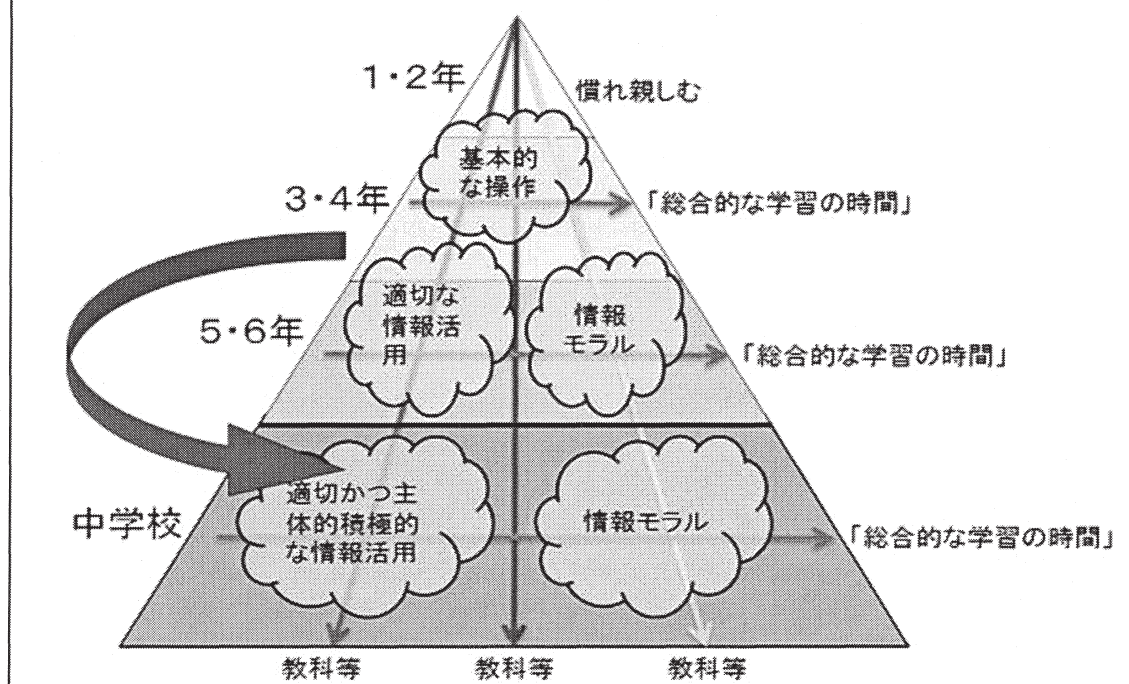


図 1

情報活用能力を、情報教育の目標の3観点の定義に基づく8要素にさらに分類して、整理すると以下ようになる。

A 情報活用の実践力

「情報活用の実践力」は、「課題や目的に応じた情報手段の適切な活用」、「必要な情報の主体的な収集・判断・表現・処理・創造」、「受け手の状況などを踏まえた発信・伝達」の3つの要素からなる。

「課題や目的に応じた情報手段の適切な活用」について、小学校段階では、情報活用の基礎となるICTの基本的な操作を身に付けさせることが必要である。

「受け手の状況などを踏まえた発信・伝達」については、受け手の状況などを踏まえて、調べたものをまとめたり発表したり、ICTを使って交流したりする能力を身に付けさせるようにする。

「必要な情報の主体的な収集・判断・表現・処理・創造」については、様々な方法で文字や画像などの情報を収集して調べたり比較したり、文章を編集したり図表を作成したり、調べたものをまとめたり発表したりする能力を身に付けさせるようにする。

B 情報の科学的な理解

「情報の科学的な理解」は、「情報活用の基礎となる情報手段の特性の理解」と「情報を適切に扱ったり、自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法の理解」の2つの要素からなる。

「情報活用の基礎となる情報手段の特性の理解」について、小学校段階では、「A 情報活用の実践力」に関わるICT活用の学習活動において、コンピュータなどの各部の名称や基本的な役割、インターネットの基本的な特性について、理解させるようにする。

「情報を適切に扱ったり、自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法の理解」については、「A 情報活用の実践力」に関わるICT活用の学習活動において、その過程や成果を振り返ることを通して、適切な方法で情報を収集することができたか、収集した情報を十分に比較したり整理したりすることができたか、わかりやすくまとめたり発表したりすることができたか、情報モラルに配慮することができたか、などを評価し改善していくという方法を理解させるようにする。

C 情報社会に参画する態度

「情報社会に参画する態度」については、「社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響の理解」、「情報モラルの必要性や情報に対する責任」「望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度」の3つの要素に分けられる。情報や情報技術の役割・影響を理解し、情報モラルの必要性などについて考え、その上で、望ましい情報社会の創造に参画する態度を育成するという観点である。

「社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響の理解」について、小学校段階では、情報発信による他人や社会への影響、情報には誤ったものや危険なものがあること、健康を害するような行動などについて考え、理解させるようにする。

「情報モラルの必要性や情報に対する責任」については、ネットワーク上のルールやマナーを守ることの意味、情報には自他の権利があることなどについて考え、理解させるようにする。「望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度」については、情報通信ネットワークは公共の場であることを意識し、約束やきまりを守りながら、情報社会に参加しようとする態度を身に付けさせるようにする。

各論③ 総合的な学習の時間を通じた情報活用能力の育成

上記の情報教育の目標における3観点を元に総合的な学習の時間でのICTの活用について、総合的な学習の時間の学習過程のプロセスに準じていった場合、総合的な学習の時間の概要を意識する必要がある。

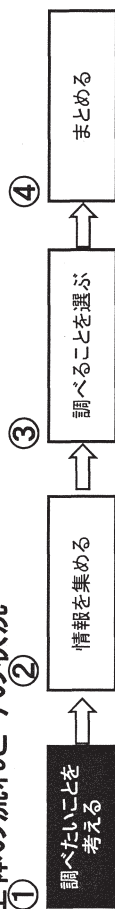
総合的な学習の時間については、自ら学び自ら考える力などの「生きる力」をはぐくむために、既存の教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習となることを目指して実施されてきた。今回の改訂では、その趣旨を一層明確にする観点から、その目標に「探究的な学習」とすることが明確に位置づけられた。また、「協同的」な態度を育てることについても明確にされたところである。「探究的な学習」については、学習過程が以下の4つのプロセスにより展開されることが重要であることが示されている。

- 1) 【課題の設定】
- 2) 【情報の収集】
- 3) 【整理・分析】
- 4) 【まとめ・表現】

こうしたプロセスを何度も繰り返しながら学習活動を展開する上で、コンピュータやインターネット、その他各種の情報機器など、ICTを活用していくことは非常に有効といえる。

例えば、1) 課題の設定においては、体験活動などを通じて得られた情報を交換しながら考えたり話し合ったりする上で、デジタルカメラで撮影した写真、テレビやインターネットで収集した情報などを活用して、客観的な情報として示したり、イメージを共有したりすることなどが考えられる。2) 情報の収集においては、多面的・多角的な分析に必要な様々な情報を効率的に収集・蓄積するための手段として活用することが考えられる。3) 整理・分析においては、どのような情報が収集されているかを把握したり、統計的な方法などで分析したり、整理・分析の過程を図などに可視化したりすることが考えられる。4) まとめと表現においては、写真やグラフ、図表などを用いてプレゼンテーションとして表現するために活用することが考えられる。

全体の流れと今の状況



めあて『テーマに対するイメージをたくさん出そう』

手順

- ① 調べるテーマを真ん中に書きましょう。
- ② テーマを色々な角度から考えて、はてな(知りたいこと、調べたいことなど)を広げよう。

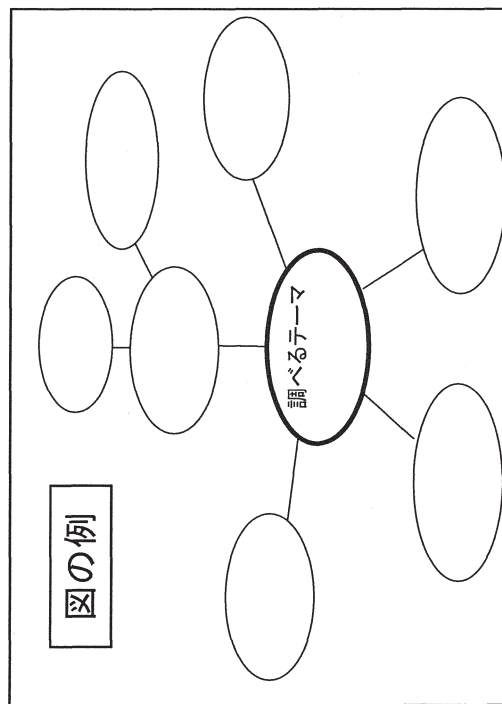
視点① テーマの題名からイメージできるもの、こと。

視点② 自分が今まで学習した中で知っていること。

視点③ 子どもや大人、高齢者などから見たときのイメージ。
真面、大阪、日本、外国などから見たときのイメージ。

※ただし、人の感情(「こわい」や「かわいい」や「すごい」など)は、なし。具体的な言葉で。

③ 思いついたことは、枝を伸ばしてどんどん書きましょう。アイディアは数が大事です。



イメージマップを作ってみよう。



ワークシートNo.2 (教師用)

「はてな？」を深めよう

全体の流れと今の状況

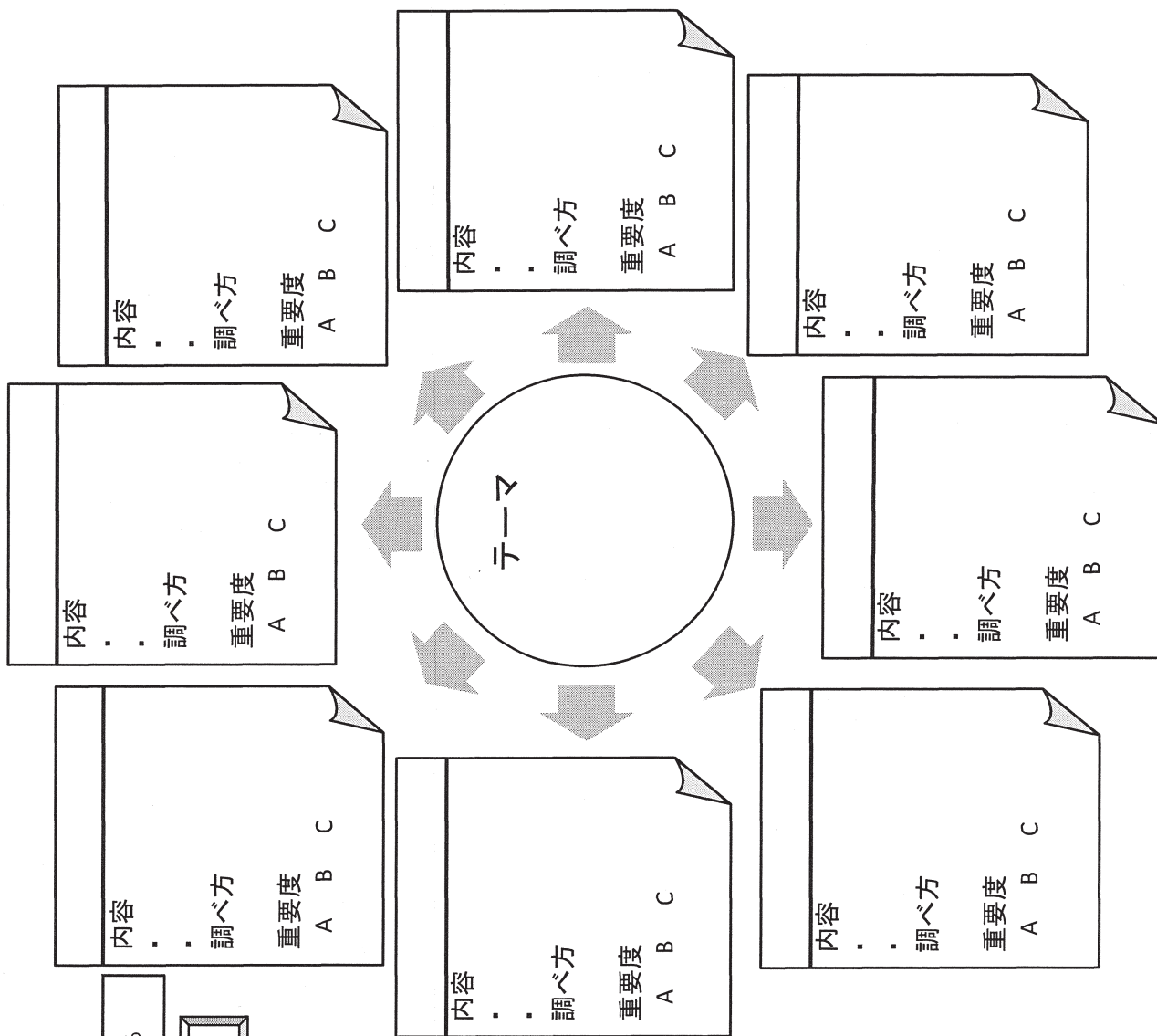


めあて 『自分の調べたい内容を更に深めよう』

手順

- ① 調べるテーマを真ん中に書きましょう。
- ② No.1で思い浮かべた「はてな」を周りのカードの見出しに書きましょう。
- ③ 「はてな」について調べたい内容、調べ方を具体的に書いてみよう。
(いくつでもOK!)
- ④ 「はてな」に対する重要度を設定しよう。(3段階)

6年 組 班 名前 ()

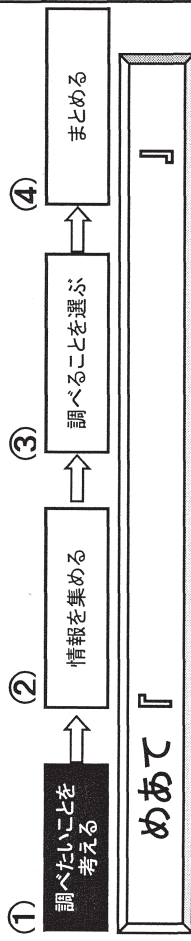


ふりかえ

ワークシートNo.2 (児童用) 「はてな？」を深めよう

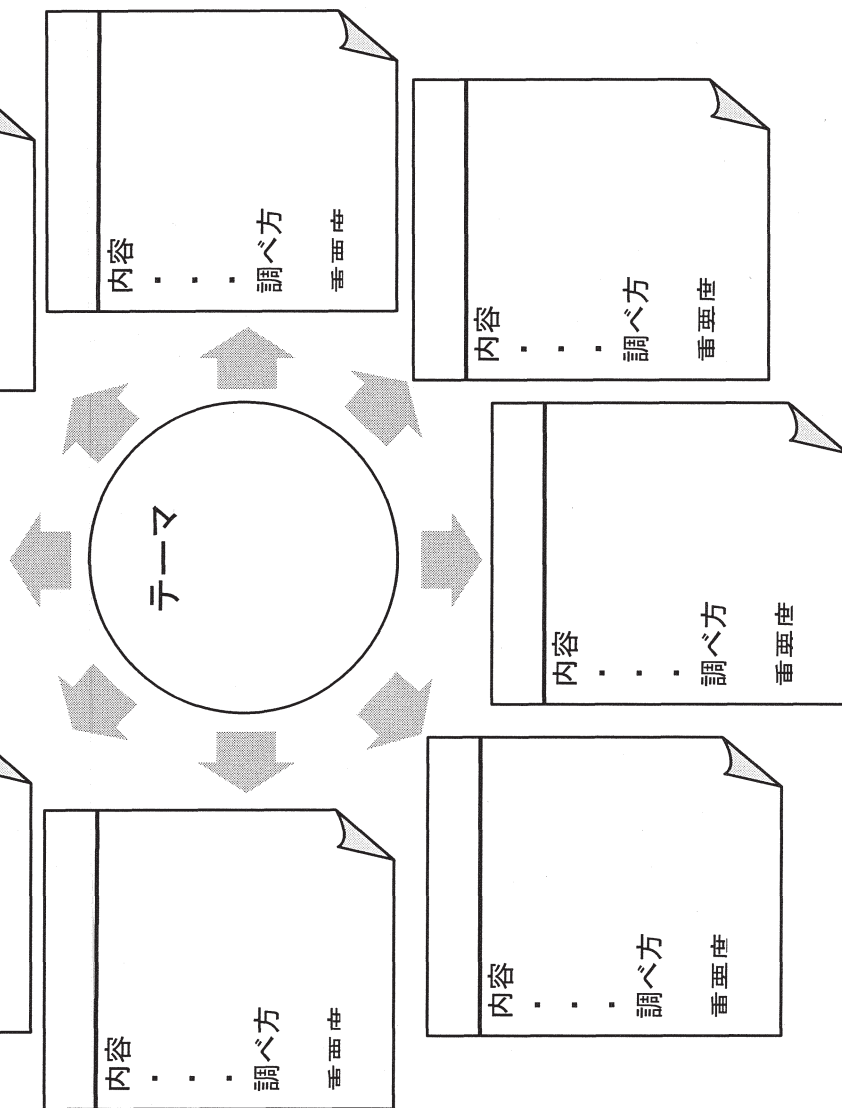
6年 組 班 名前 ()

全体の流れと今の状況



手順

- ① 調べるテーマを真ん中に書きましょう。
- ② No.1で思い浮かべた「はてな」を周りのカードの見出しに書きましょう。
- ③ 「はてな」について調べたい内容、調べ方を具体的に書いてみよう。
(いくつでもOK!)
- ④ 「はてな」に対する重要度を設定しよう。(3段階)

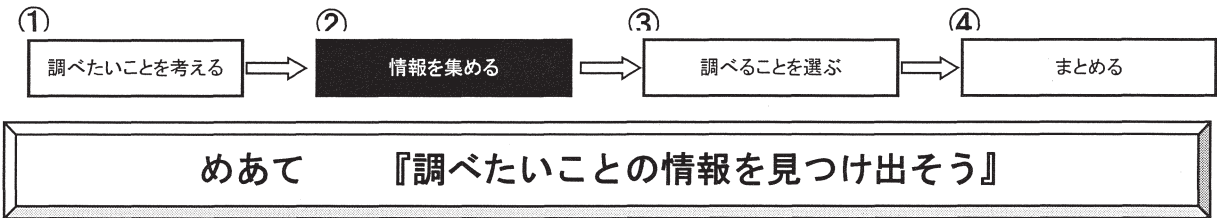


ふりかえ

ワークシートNo.3（教師用）
「はてな？」についての情報を集めよう

6年 組 班 名前（ ）

全体の流れと今の状況



手順（1時間目で情報のありかを明らかにする。2時間目で簡単な内容を書く。）

- ①調べたことを簡単に整理しましょう。内容は、簡単に。2時間で全てうめられるように調べましょう。（No.2の重要度の順に調べる）
- ②No.2で作ったカードに番号をつけましょう。
- ③調べてみて、内容に「大発見度」、「重要度」をつけましょう。（重要度は、No.2とちがい5段階で表す）
- ④特に大切だと感じた内容を選んでベスト5を決めましょう。

番号	簡単な内容	情報のありか （本の題名、ページ、 HPの名前など）	大発見度 5段階	重要度 5段階	ベスト5

ふりかえり

ワークシートNo.3 (児童用)

「はてな？」についての情報を集めよう

6年 組 班 名前 ()

全体の流れと今の状況



めあて 『 』

手順 (1時間目で情報のありかを明らかにする。2時間目で簡単な内容を書く。)

- ①調べたことを簡単に整理しましょう。内容は、簡単に。2時間で全てうめられるように調べましょう。(No.2の重要度の順に調べる)
- ②No.2で作ったカードに番号をつけましょう。
- ③調べてみて、内容に「大発見度」、「重要度」をつけましょう。(重要度は、No.2とちがい5段階で表す)
- ④特に大切だと感じた内容を選んでベスト5を決めましょう。

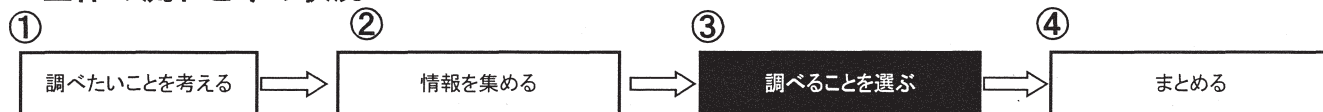
番号	簡単な内容	情報のありか (本の題名、ページ、 HPの名前など)	大発見度 5段階	重要度 5段階	ベスト5

ふりかえり

ワークシートNo.4 (教師用) 情報を合わせよう

6年 組 班 名前 ()

全体の流れと今の状況



めあて 『グループで話し合っ、見出しをきめよう。』

手順

①No.3で調べた自分の小テーマを付箋(ふせん)に書く。小テーマを選んだ理由は、右下の四角の中に書く。

②付箋(ふせん)の題名・内容を班の中で発表する。No.3でメモした簡単な内容を元に説明をする。

(班の人に分かるように説明するようにしよう。選んだ理由も言えるとグッド！)

③発表が終わったら付箋(ふせん)をグループ分けしてみよう。(説明を聞いて似ていたものをまとめる)

※3人班なら3つ、4人班なら4つ程度にわけてみよう。

※グループの数が足りない時は、新しい見出しを考える。

④グループ分けをしたものを元に「見出し」を決めよう。

注意

①「見出し」が同じような内容のものになっていないか。

②「平和学習」を意識したものになっているか。

③聞く人、読む人が興味を持てるような見出しになっているか。

《グループテーマ》

個人発表の仕方

- ・私が調べた小テーマは、 個あります。
- ・1つ目は、「(自分の調べたテーマ)」です。内容は、『(No.3で調べた簡単な内容)』です。
- ・2つ目は、…(1つ目と同じように)

・
・
・

※発表が終わるごとにグループを分ける。

決定した班の見出し

①

②

③

④

ふりかえり

